

# 小国訪問農作業のご報告

2021.6.11~13

一般財団法人 日本善意財団

谷口 賀彦

## 【お米つなぐプロジェクト】

熊本・阿蘇郡で真摯にお米を作られている生産者へ、田植えの時点で契約栽培の生産をお願いし、1年分の支援のお米を買い取り、収穫から毎月30kgを神戸市のWACCA（わか）さん、東京都葛飾区のレインボーボンさんへ直接お届けする「お米つなぐプロジェクト」です。

6月11日～13日の3日間、契約栽培をお願いしている、北川八郎さん、松丸伸一さんがお米作りをされている、田んぼの農作業お手伝いに伺いました。

神戸のWACCAさんと、支援のご縁をつないでくださった「with コロナ KOBE 応援プラットフォーム」代表の盛島様も神戸からお越しいただき、フルに農作業を手伝っていただきました。

熊本県・阿蘇郡南小国町でお米づくりをされている北川八郎さん。食べる人が元気になるよう、稲に毎日声をかけながら、無農薬または低農薬で有機栽培をおこなっています。



北川八郎さんの田んぼ前で

お隣の 小国町、標高 800m以上の谷の一番奥、筑後川の源流に近い土地で低農薬・有機栽培をおこなう松丸伸一さん。素晴らしい水質の田んぼで、6月には夜になるとたくさんの蛍が見られます。美しい熊本の地で、愛情をこめて丁寧に作られたお米で子どもたちへエールを届けます。



手作業で抜いたひえ(稲にそっくりな雑草)

稲と見分けが付きにくく、手作業で根気強く抜いていきます。(かなり腰にきます)

稲の大敵で、下流の田んぼに迷惑がかかるため畦には捨てられず、軽トラで山奥に捨てに行きました。



田植えではなく、雑草抜き作業です。

盛島様にも、きつい姿勢で粘り強くお手伝いいただきました。

北川さん田んぼ脇の畑 草刈り前（腰の高さまでしっかりと生えています）



草刈り機作業（かなり振動あり）



草刈り後

3日間の作業でしたが、有機農業の大変さを身をもって知ることがわずかでもできたと思います。

とにかく草との戦いです。

除草剤、農薬を最小限しか使わないため、すごいエネルギーでいやになるくらい雑草が生えてきます。

ひえ抜き作業は4人で半日頑張っ、それでも5反のうち1反ぐらいしかできませんでした。

こういった地道な手作業の積み重ねで、美味しく安全なお米が作られることを、体験とともに知ることができました。

今後も田んぼの途中経過を送っていただき、皆様にお届けしていきたいと思います。

北川さん、松丸さんが、思いを込めて丁寧に作る美味しいお米。

秋の収穫後、皆様に新米をお届けできる日を楽しみにしています！



財団 佐渡理事長（左）財団の発起人であり評議員である北川さん（中央）財団 谷口（右）